

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月開催
単元株式数	100株
基準日	定時株主総会 毎年3月31日
	期末配当 毎年3月31日
	中間配当 毎年9月30日（中間配当を実施する場合）

【株式に関する住所変更等のお届出及びご照会について】
証券会社に口座を開設されている株主様は、住所変更等のお届出及びご照会は、口座のある証券会社宛にお願いいたします。証券会社に口座を開設されていない株主様は、下記の電話照会先にご連絡ください。

株主名簿管理人及び特別口座の口座管理機関	大阪市中央区北浜四丁目5番33号 住友信託銀行株式会社
株主名簿管理人	東京都中央区八重洲二丁目3番1号
事務取扱場所（郵便物送付先）	住友信託銀行株式会社 証券代行部 〒183-8701 東京都府中市日鋼町1番10 住友信託銀行株式会社 証券代行部
（電話照会先）	☎0120-176-417
（インターネットホームページURL）	http://www.sumitomotrust.co.jp/STA/retail/service/daiko/index.html

【特別口座について】
株券電子化前に「ほふり」（株式会社証券保管振替機構）を利用されていなかった株主様には、株主名簿管理人である上記の住友信託銀行株式会社に口座（特別口座といいます。）を開設いたしました。特別口座についてのご照会及び住所変更等のお届出は、上記の電話照会先をお願いいたします。

公告方法	電子公告により、当社のホームページに掲載します。 URL http://www.mars-eng.co.jp/kessan/index.html ただし、やむを得ない事由により電子公告をすることができないときは、日本経済新聞に掲載します。
上場証券取引所	東京証券取引所

当社ホームページのご案内

当社ホームページにて、決算短信などの財務情報のほか、各種IR資料、株式情報、株主優待のご案内なども掲載しています。どうぞお気軽にアクセスしてみてください。



URL: <http://www.mars-eng.co.jp>

[マースジャーナル]
第38期 中間報告書
平成23年4月1日から平成23年9月30日まで

Vol.11

MARS Journal



新製品のパーソナルPCシステムで 更なる拡販を目指します。



代表取締役社長 松波 明宏

平素は格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

このたびの東日本大震災により被災された株主の皆様には、心よりお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復興をお祈り申し上げます。

当中間期におけるパチンコ業界は、東日本大震災の影響を受けて、集客は落ち込み、設備投資は先送りされる傾向にありました。夏季には電力不足懸念から業界で自主基準を定め、各店舗で輪番休業の実施や、ネオン・看板の消灯等を行い、東京電力管轄内の店舗においては前年比25%以上の節電を行ってまいりました。

そのような厳しい状況の中で、当社グループは玉積み、玉運びをなくし、少数精鋭でホール運営ができる「パーソナルPCシステム(以下、「パーソナル」という。))」を中心とした販売を展開してまいりました。機能面やサービス体制等で付加価値を高め、競合他社との値引き競争に距離を置いたため、新たにストックビルバリ搭載のパーソナルをリリースし、一層の市場シェアの拡大を図ってまいりました。下期には9月に発表した新製品を続々とリリースする予定であり、今後、新しい市場の開拓や需要の掘り起こしができるものと確信しております。

RFID事業においては、子会社の㈱マーステクノサイエンスが医療施設や学童施設、飲食店等の新規分野において拡販を促し、着実に実績を積みあげております。9月にはバーコード関連で卓越した技術と実績を持つ㈱東研が当社の完全子会社となり、㈱マーステクノサイエンスとの合併を予定しており、両社合併によるシナジー効果で、RFID事業がアミューズ関連事業に次ぐ事業として成長することを期待しております。

ホテル関連事業においては、10月に開業1周年を迎えたマースガーデンウッド御殿場の早期営業黒字化を目指してまいります。

株主の皆様には、今後とも格段のご理解とご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

当中間期の業績

当中間期(第2四半期連結累計期間)の業績は、売上高135億78百万円(前年同期比5.9%増)、営業利益は29億56百万円(同5.1%増)、経常利益は28億82百万円(同5.5%減)、中間純利益は15億74百万円(同47.2%増)となりました。

[アミューズメント関連事業]

●プリペイドカードシステム

集客のために玉積み演出が主流となっているパチンコ業界において、当社グループは従業員の玉積み・玉運び業務をなくし、少人数で効率的なホール運営ができる「パーソナルPCシステム(以下、「パーソナル」という。))」を主力システムとして拡販し、業界の新しい標準を目指してまいりました。

当社グループの一連の営業活動によって、ホール店様の従業員の労働環境の改善や経費削減等、パーソナルの導入効果が評価され、部分導入から全台導入へ切り替える店舗が増加したことや、近年低迷していたパチスロの人气が回復基調にあり、パチスロ向けメダルサンド等の販売が好調に推移したことから、パーソナルの売上実績は74店舗、発売以来の累計導入(実稼働)店舗数は当中間期末時点で857店舗となりました。また、パーソナルを含めたサイクルカードシステムの売上実績は116店舗、導入(実稼働)店舗数は累計2,097店舗(市場シェア21.7%)となり、当システムの個別売上高は65億6百万円となりました。

●景品管理システム

景品管理システムのバイオニアとして、当社は高いブランド力とシェアを誇っています。成熟した市場ではあるものの、当社ユーザーをターゲットとしたリプレースを図ってまいりました。しかし更新需要は低迷し

ており、当システムの個別売上高は9億49百万円となりました。

●RFID

「様々なビジネスシーンでの活用が期待されるRFID」をキーワードに、㈱東研と共同出展でデモ展示を行うなど、医療や教育、図書館等の幅広い分野の展示会への出展を通じて新しい市場を模索してまいりました。

健診・人間ドック向けデータ収集システム「健診ステーション」、ICカードタイムレコーダー「クロノステーション」、少人数での店舗運営をサポートする「非接触ICカード多機能端末」を中心に販売実績をあげ、RFIDの個別売上高は、5億15百万円となりました。

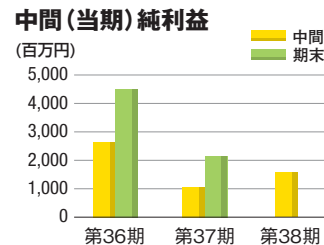
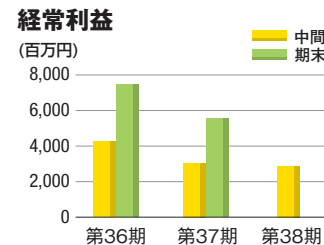
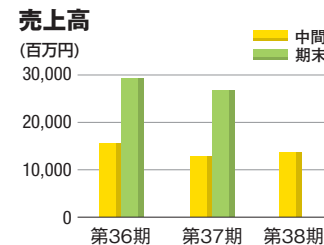
その他品目の個別売上高を合計しました結果、アミューズメント関連事業の個別売上高は131億94百万円(前年同期比4.9%増)となり、営業利益は32億48百万円(同14.0%増)となりました。

[ホテル関連事業]

ホテル経営を取り巻く厳しい環境の中、ホテルサンルート博多は、JR博多駅に近い立地の良さと同ホテルチェーンの中で表彰される程の質の高いサービスが評価され、多くのリピーターにご利用いただきました。

また、今年10月で開業1周年を迎えるマースガーデンウッド御殿場は、テレビCM等で認知度とブランドの向上を図る一方、顧客ニーズに合った様々な新プランを提案し、稼働率の向上に努めてまいりました。

この結果、ホテル関連事業の個別売上高は3億84百万円(前年同期比56.2%増)となり、営業損失は2億92百万円(前年同期は35百万円の営業損失)となりました。



パーソナルPCシステム

最新システムと 技術が集結した 展示会を開催!

9月1日の東京を皮切りに、福岡と大阪、そして好評につき名古屋でも「新製品発表展示会」を開催しました。

パーソナルPCシステムでは、紙幣搬送不要の4金種識別SB(ストックビルバリ)シリーズが新たにラインアップに加わりました。SBシリーズは顧客ニーズに合わせて、有機EL搭載タイプと7セグ10キータイプを用意し、すっきりとした設置を実現可能にしました。

今回の目玉となったのは「総合管理システム」。同システムは「景品管理」「会員管理」「ホールコンピュータ」の3つのシステムを融合したマース独自のシステムであり、ホール経営の判断材料となる新しい情報「PL(PLAYER)指標」を提供するシステムとして、全面にアピールしました。また、新発表のメダル計数機「m2200」のほか、この新製品の機能を応用したスロット版のパーソナルも参考出品として出展しました。

どのシステムも多くの来場者から高い関心が寄せられ、大盛況の展示会となりました。



大阪会場



東京会場



名古屋会場



福岡会場

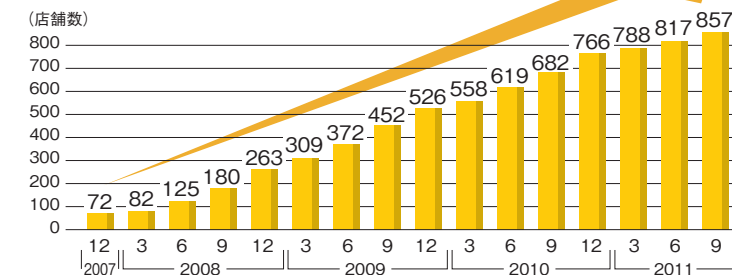


● パーソナルPCシステム 新ラインアップ



マースの「パーソナルPCシステム」は進化を重ねて現在までにIからIVまでの4種類を取り揃えています。今回の展示会で発表したSB(ストックビルバリ)シリーズは紙幣搬送が不要となりました。

● パーソナルPCシステムの導入店舗数(累計)



パーソナルPCシステムは、遊技機ごとに計数機を備え付けており、遊技客の利便性向上、ホール従業員の負担の大幅な削減、ホール経営者にとっての少人数での効率的なホール運営を可能にした当社独自のシステムです。

遊技ファンのみならず、数多くのパチンコホールからも支持されているパーソナルPCシステムは、全国47都道府県すべてへの導入を果たし、更に導入店舗を増やしています。

パーソナルPCシステムが全国各地に続々と導入されています。



気仙沼セントラル鹿折店様 [宮城県気仙沼市]

東北地方を中心に13店舗を展開する㈱セントラル伸光様。宮城県気仙沼市にある「気仙沼セントラル鹿折店」様は、今回の震災により大きな被害を受けてしまいましたが、再開を望む多くの地元ファンの期待に応えて、市内初の1円パチンコ・5円スロットの低貸し専門店としてリニューアルオープンしました。

系列で7店舗目のパーソナルPCシステムの導入となる同ホール様では、Air紙幣搬送や景品・会員管理システムも導入され、遊技客の利便性の大幅な向上を実現。店内では広くて安全な遊技空間が創り出されています。

気仙沼セントラル鹿折店様のコメント

パーソナルPCシステムの導入により、今までやりたくてもできなかった出入り口での冷たいおしぼりの配布サービスなどが実現できました。今後も他店との差別化を図るために丁寧な接客を心掛け、接客サービスを向上させてまいります。

また、当店ではお客様へのメッセージとして「みんなの笑顔に会えるね」を掲げ、元気を届けるために、様々な取り組みを行っています。お客様や地域の方々の心の拠り所となるような地域密着型のホールづくりを目指してまいります。



100万ドル塩田店様 [長野県上田市]

長野県を中心に北海道、関東、関西に31店舗を展開するアメニティーズグループ様が経営する100万ドル塩田店様は、一見パチンコホールとは思えない程、周囲の自然と調和した外観をしています。店内にはパチンコ全台にパーソナルPCシステムが導入され、足元の玉箱がなくなったため、地域初の全面カーペットが敷かれています。

パーソナルの導入でスタッフの労力が大幅に低減されたことにより、お客様との対話を重視したサービスで、今まで以上に地元ファンのハートをしっかりとキャッチしています。

100万ドル塩田店様のコメント

アメニティーズグループは、地元の会社に店舗の建設を依頼したり、建設地にいる周囲の木々をそのまま残したりとその地域に根差した店舗づくりを行っています。

パーソナルを導入した塩田店は土地柄、年配のお客様が多く、お客様の顔を見ながら積極的に声をかけています。パチンコ施設だけではなく、広々としたリフレッシュコーナーは、地元ファンにとって憩いの場になるような快適な空間となっていました。

地域のお客様に愛され、笑顔あふれるお店を目指してまいります。

TOPICS 1 (株)東研、マースグループの完全子会社へ。

以前よりマースグループと業務・資本提携しておりました(株)東研(以下:東研)は、9月1日付で当社の完全子会社となりました。東研のメインビジネスであるバーコード関連事業においては、様々な市場で実績をあげ、最近ではトレーサビリティの要望の高まる食品業界へ販売活動を展開しています。



「自動認識総合展」に共同出展

東京ビッグサイトで8月31日～9月2日に開催された「自動認識総合展」には、(株)マーステクノサイエンス(以下:MTS)と共同で出展し、東研の二次元バーコード

(株)東研の
主な製品

TUX-3200
汎用ナノフォーカス
X線顕微鏡検査装置



TFIR-3172
ダイレクトマーキング用
固定式2次元イメージャー

製品とマースグループのRFID製品を組み合わせた「製造業向け現場ソリューション」など様々なシステムソリューションを展示しました。

今後はマースグループのRFID技術と東研のバーコード技術を融合させ、自動認識分野での商材拡大や販売強化のため、MTSと東研は平成24年2月1日付で合併する予定です。

TOPICS 2 「マースガーデンウッド御殿場」1周年!

昨年グランドオープンした「マースガーデンウッド御殿場」は、長く低迷する国内の経済情勢に加えて、東日本大震災の影響も重なり、厳しい状況の中での門出となりましたが、10月10日に開業1周年を迎えることができました。

東名御殿場IC近くにある当ホテルは、富士山を臨むロケーション、弱アルカリ性の良質な天然温泉、44平米以上の寛げる部屋、選べる4つのレストランでの食事を通して、最高級のおもてなしを目指してまいりました。

更に広く多くの方に当ホテルを知っていただくために、4月からはテレビコマーシャルを始め、積極的に知名度の向上を図っています。



Consolidated Financial Statements [中間連結財務諸表]

中間連結貸借対照表(要旨)

(単位:千円)			
科 目	当中間連結 会計期間末 平成23年 9月30日現在	前中間連結 会計期間末 平成22年 9月30日現在	前連結 会計年度末 平成23年 3月31日現在
資産の部			
流動資産	38,090,957	35,765,762	36,205,889
固定資産	21,599,566	21,172,863	20,621,834
有形固定資産	15,114,535	14,380,424	14,285,067
無形固定資産	393,709	210,814	216,909
投資その他の資産	6,091,321	6,581,624	6,119,856
資産合計	59,690,523	56,938,625	56,827,724
負債の部			
流動負債	12,641,402	12,212,555	11,440,811
固定負債	5,629,074	5,695,773	5,769,695
負債合計	18,270,476	17,908,329	17,210,506
純資産の部			
株主資本	41,686,690	39,362,193	39,890,979
その他の包括利益累計額	△266,643	△331,897	△273,762
純資産合計	41,420,046	39,030,296	39,617,217
負債純資産合計	59,690,523	56,938,625	56,827,724

中間連結損益計算書(要旨)

(単位:千円)			
科 目	当中間連結 会計期間 (平成23年4月 1 日から 平成23年9月30日まで)	前中間連結 会計期間 (平成22年4月 1 日から 平成22年9月30日まで)	前連結 会計年度 (平成22年4月 1 日から 平成23年3月31日まで)
売上高	13,578,979	12,822,439	26,700,312
売上原価	6,697,094	6,110,417	13,259,311
売上総利益	6,881,885	6,712,021	13,441,001
販売費及び一般管理費	3,925,471	3,897,924	7,871,458
営業利益	2,956,413	2,814,097	5,569,542
営業外収益	109,322	239,194	157,828
営業外費用	183,494	4,682	32,329
経常利益	2,882,241	3,048,609	5,695,041
特別利益	272,130	1,292	145,831
特別損失	274,317	1,262,732	1,257,897
税金等調整前中間(当期)純利益	2,880,054	1,787,169	4,582,974
法人税、住民税及び事業税	1,441,183	886,724	2,386,880
法人税等調整額	△135,547	△169,151	44,326
少数株主損益調整前 中間(当期)純利益	1,574,418	1,069,596	2,151,768
中間(当期)純利益	1,574,418	1,069,596	2,151,768

中間連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位:千円)			
科 目	当中間連結 会計期間 (平成23年4月 1 日から 平成23年9月30日まで)	前中間連結 会計期間 (平成22年4月 1 日から 平成22年9月30日まで)	前連結 会計年度 (平成22年4月 1 日から 平成23年3月31日まで)
I 営業活動によるキャッシュ・フロー	3,369,716	1,694,582	3,154,721
II 投資活動によるキャッシュ・フロー	51,514	△3,232,865	△3,786,809
III 財務活動によるキャッシュ・フロー	△552,761	△553,516	△1,105,668
IV 現金及び現金同等物に 係る換算差額	△4,634	△4,052	△2,380
V 現金及び現金同等物の 増減額(減少:△)	2,863,835	△2,095,852	△1,740,137
VI 現金及び現金同等物の 期首残高	12,747,852	14,487,990	14,487,990
VII 現金及び現金同等物の 中間期末(期末)残高	15,611,688	12,392,137	12,747,852

Non-consolidated Financial Statements [中間単体財務諸表]

中間単体貸借対照表(要旨)

(単位:千円)			
科 目	当中間期末 平成23年 9月30日現在	前中間期末 平成22年 9月30日現在	前事業年度末 平成23年 3月31日現在
資産の部			
流動資産	18,490,723	14,690,723	15,329,128
固定資産	14,701,597	20,106,045	15,253,823
有形固定資産	3,683,456	7,987,428	3,783,909
無形固定資産	117,233	110,146	128,063
投資その他の資産	10,900,906	12,008,470	11,341,850
資産合計	33,192,320	34,796,768	30,582,951
負債の部			
流動負債	3,454,267	3,246,415	3,384,330
固定負債	629,608	543,272	589,781
負債合計	4,083,875	3,789,687	3,974,112
純資産の部			
株主資本	29,338,460	31,300,187	26,843,443
評価・換算差額等	△230,015	△293,106	△234,603
純資産合計	29,108,444	31,007,080	26,608,839
負債純資産合計	33,192,320	34,796,768	30,582,951

中間単体損益計算書(要旨)

(単位:千円)			
科 目	当中間期 (平成23年4月 1 日から 平成23年9月30日まで)	前中間期 (平成22年4月 1 日から 平成22年9月30日まで)	前事業年度 (平成22年4月 1 日から 平成23年3月31日まで)
売上高	10,482,845	9,366,608	19,779,066
売上原価	5,659,956	5,156,098	10,989,231
売上総利益	4,822,888	4,210,509	8,789,835
販売費及び一般管理費	3,206,646	3,321,660	6,549,852
営業利益	1,616,242	888,849	2,239,983
営業外収益	1,545,498	1,242,769	1,298,799
営業外費用	4,634	4,052	2,299
経常利益	3,157,106	2,127,566	3,536,483
特別利益	169	693	74,915
特別損失	262,317	1,067,651	1,076,075
税引前中間(当期)純利益	2,894,958	1,060,607	2,535,323
法人税、住民税及び事業税	783,236	96,249	817,584
法人税等調整額	△162,003	△107,967	352,551
中間(当期)純利益	2,273,725	1,072,325	1,365,187

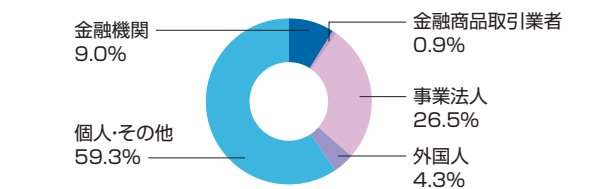
株式の状況

発行株式数及び株主数	
発行可能株式総数	6,762万株
発行済株式の総数	2,272万株
株主数	11,363名

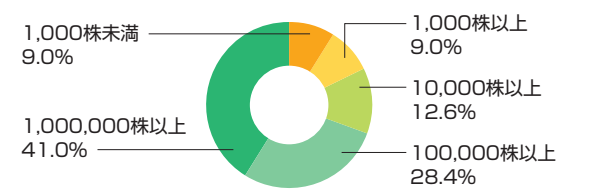
大株主の状況

株主名	持株数(千株)	議決権比率(%)
(株)イー・エムプランニング	5,643	29.63
松波廣和	680	3.57
松波香代子	680	3.57
松波明宏	680	3.57
みずほ信託銀行(株) 退職給付信託 東京都民銀行口 再信託受託者 資産管理サービス信託銀行(株)	600	3.15
古宮重雄	490	2.57
五味輝雄	450	2.36
永井美香	432	2.27
大矢俊寿	388	2.04
日本マスタートラスト信託銀行(株)(信託口)	350	1.84

所有者別分布状況



所有株数別分布状況



会社概要

商号	株式会社マースエンジニアリング (Mars Engineering Corporation)
本社所在地	東京都新宿区新宿一丁目10番7号
設立年月日	昭和49年9月13日
会社の目的	1. 各種電子機器の設計・試作並びに製造販売 2. ソフトウェアの開発 3. 電子機器の開発、企画並びに販売 4. ホテルの経営 5. 不動産の賃貸業 6. 建築工事の企画、設計並びにコンサルティング業務 7. 損害保険代理店業 8. 前各号に付帯する一切の業務
資本金	7,934,100,000円
就業者数	492名(男449名、女43名)

役員

代表取締役会長	古 宮 重 雄
代表取締役社長	松 波 明 宏
取締役相談役	松 波 廣 和
取締役	村 上 浩 浩
常勤監査役	佐 藤 忠 義
社外監査役	竹 俣 耕 一
社外監査役	小 林 郁 夫

執行役員

常務執行役員営業本部長	秋 山 裕 和
常務執行役員管理本部長	佐 藤 敏 昭
執行役員技術開発部長	井 出 平三郎
執行役員品質保証部長	名 取 満 郎
執行役員営業本部副本部長	秋 山 学

MARS History ①

創業30周年で更なる飛躍へ

ホール経営に革命をもたらす
新「パーソナルPCシステム」、
ついにデビュー！

「企業30年説」。会社の創成から衰退まで、その寿命は30年しかないという大胆な試論です。しかし、マースにとって創業30年目は新たな飛躍へのスタートラインというべき節目の年になりました。

苦難の中の船出から長い歴史を刻んできたマースは、平成16年9月に30周年を迎えると、翌月には経営体制を一新。松波明宏現社長が代表取締役社長に就任します。若きリーダーの誕生に、社内の士気はいやが上にも高まりました。

この新体制の最初の課題の1つが、同年11月に発行された新紙幣の対応でした。各社の対応が遅れる中、マースはグループ力を結集し、全国に広がるマースのメンテナンス網によるきめ細かな対応と、グループ企業の㈱ウインテックの高度な紙幣識別技術を駆使して速やかに対応を完了させました。

市場からは高い評価をいただき、平成17年3月期の連結決算では、売上・利益ともに史上最高額を記録するに至りました。

順風満帆に見えたマースですが、その先には予期せぬ厳しい試練が待ちかまえていました。行政による相次ぐ規制の実施です。平成17年にはいわゆる「みなし機(期限切れの遊技機)」



創立30周年記念パーティー

が、2年後には射幸性の高さが問題視されていたパチスロ4号機が撤去となりました。平成18年には風適法の改正が行われ、度重なる規制はホール経営に重大な影響を及ぼしました。また、その影響からマースの事業環境は悪化し、業績も下降していきました。

こうした中、平成18年に社運をかけて送り出したのが、ホール経営を根底から変革し、のちに業界標準となる「パーソナルPCシステム」です。平成8年に一度初代「パーソナルシステム」を登場させましたが、このときはパチンコ業界の冷え込みもあり、市場に十分に浸透するには至りませんでした。

当時の教訓を活かしつつ、業界のトレンドや時代の趨勢を見据えたこの新しいパーソナルPCシステムは、入金・遊技・計数のすべてを座ったまま行うことができるもので、ホールの従業員を玉運びの重労働から解放し、お客様の利便性を格段に向上させました。現在市場を席巻している「パーソナルPCシステム」は、様々な苦難を乗り越えてきたマースの営為の結晶であり、10年越しのリベンジマッチの成果だったのです。